

説教

聖日礼拝

北浜チャーチ
黒田禎一郎

2018年8月19日（日）

主 題：「だまされないように」（2）

—祝福から外れないために—

テキスト：ヤコブの手紙1章16－18節

はじめに

- ・前回、私たちは「だまされないように」という主題で神の御声を聞きました。今回も、その続きで「だまされないように」（2）というテーマで、掘り下げてみたいと思います。

1:16 愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。

- ・著者はまず、「愛する兄弟たち」という呼びかけをしています。つまり同じユダヤ人でイエス・キリストを救い主と信じた人たちメシアニック・ジューたちです。ヤコブは彼らに、「だまされないように」と書き送っています。そこには2つの意味があります。

1) 神は誘惑されないお方

1:13 だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。

- ・神が誘惑することは、あり得ないからです。

2) 誘惑を他のせいにしてはいけない

- ・誘惑がやってきたとき、私たちはサタン、悪魔、他の人々、自分が置かれた環境、幼いころからの体験などにすることがありますね。つまり、この誘惑は自分の責任ではなく、他のせいであると主張するのです。しかし、そうでしょうか。聖書は、人が誘惑に会い罪を犯すのは、その人自身の責任であると教えています。ヤコブは次のように言いました。

1:14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。 前回申しましたが、試練、誘惑と訳されている語「ペイラスモス」(peirasmos)には、2つあります。①外から来る「試み」(試練)、②内から来る「試み」(誘惑)であることを思い出してください。

- ・いかがでしょうか。誘惑を他のせいにしてはいないでしょうか。これは大きな課題です。時として、「サタンのせいだ！」 「自分の置かれた環境のせいだ！」 いや「小さい頃の幼児体験のせいだ！」 などと他のせいにしてはいないでしょうか。私たちは自分が欲に引かれ負けてしまうことも、他のせいにしてしまうことがあります。自分で自分をだましてしているようなことが、なかったかどうか、吟味してみようではありませんか。

- ・誘惑は自分の内から来る「試み」であり、自分に責任があることを認めることです。クリスチャンであっても、自分の責任として受け止めない人がいます。したがって、悔い改めることはありませんから、争いの渦中に陥ってしまうのです。
- ・著者は、とにかく「**愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。**」(1:16)と、呼びかけています。それほど、「ペイラスモス」(試練、誘惑)は大きな課題であることを覚えたいと思います。
- ・今日、私たちは神のお心を次の2点から学びたいと願います。

大切なポイント

1. 光を造られた父なる神

1:17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

- ・著者はまず、すべての良いものは天から下ってくると教えています。
「**すべての良い贈り物**」と「**すべての完全な賜物**」は上から、つまり神から来ます。これは今も変わることがない真理です。良いものは途切れることもなく、今も天から下り続けています。良いもの、全きものの筆頭は「**上からの知恵**」であります。それ以外にも、さまざまな贈物や賜物があります。クリスチャンは、日々それらを受けて生きているのです。
- ・次にヤコブは、神を「光を造られた父」と呼んでいます。つまり「**光の父(創造神)**」ということです。太陽や星には、満ち欠けがあります。しかし「**光の父**」には移り変わりや、移り行く影もないと言います。神は光の創造者であるからです。
- ・このようなわけで、神が人を誘惑することは不可能なことです。
いかがでしょうか。私たちは自らの不幸や失敗を嘆き、神を責めるようなことはなかったでしょうか。その結果、自分を苦しめるだけです。そこには悔い改めはありません。誘惑に会うことを他のせいにするのは、全くの誤解であることを覚えなければなりません。
- ・誘惑に会うことは神から来ることではありません。また、サタンや、環境や幼児体験のせいでもありません。ヤコブは次のように言いました。
1:14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。
ただし、神は誘惑が起こることを許されることがあります。そこには、神はご計画があります。光を造られた神は、ご計画をお持ちです。

- ・では、もし誘惑を受けた時、どうすればよいでしょうか。
⇒イエス・キリストの名において祈ることです。そして神の前で罪があるならば、悔い改めることです。
- ・私たちが、イエス・キリストの名において祈るならば、この世の中のどんな力も対抗できるものではありません。それが神を信じる聖徒に与えられた特権です。イエスの十字架の御血に対抗できる力は、どこにもありません。

ですから、真理のみことば（移り変わりのない）と、神の愛と恵みに信頼を置くべきなのです。

- ・イエスを神の子(メシア)と信じた聖徒は、どのようなものでしょうか。

2. イエスを信じた者の立場

1) 真理のみことば

- ・著者は、「ペイラスモス」（試練、誘惑）というテーマとして、18節で次のように述べました。

1:18 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。

罪は死を生みます。それとは正反対に、父なる神は私たちをお生みくださいました。つまり、私たちが霊的に新生したのは、父なる神によるということです。

- ・18節で「父はみこころのままに」とありますから、私たちは自分の努力によって救われるわけではありません。神がしてくださったことのゆえに、救われるのです。新生もまた、神が父から来る良い贈物の一つです。
- ・ここで大切なことがあります。それは神が私たちを救われる方法は、「真理のことば」によることです。聖書には、人は「真理のことば」によって救われるとあります。ここに幾つかの聖句を引用しましょう。

ローマ人への手紙10章

10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

1ペテロの手紙1章

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

1:24 「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

1:25 しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。

- ・人は福音のメッセージを聞き、それを受け入れる決心をして救われます。受け入れる（信じる）というのが、私たちの側の責任です。

- ・ところで、神が私たちをお救いくださる理由はどこにあるのでしょうか。

神は自己中心で罪の塊のような者を、なぜお救いくださったのでしょうか。私たちは、聖い神の前では、なんの値も魅力もない汚れた者にすぎません。そこには、神の尊い奥義があるのです。

2) 被造物の初穂

1:18 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。

- ・初穂とは何でしょうか。ある聖書学者は、それは紀元1世紀前の信者たちであると言います。しかしヤコブはユダヤ人信者（メシアニック・ジュー）に向けて書いていますので、「初穂」とはユダヤ人信者たちのことであるとする方が自然でしょう。
- ・皆さん。初穂があるということは、それに続く収穫があるということです。ユダヤ人信者が起こされることは、始まり（初穂）であり、それから大きな収穫の祝福が来ることを示しています。ここに「神のマスタープラン」があります。

{例 話}

米国デトロイトにある「ホロコースト博物館」に入ると、次のような文章が目にとまりました。「あなたは世界のノーベル賞受賞者の中で、なぜユダヤ人が最も多いと思いますか」そして、受賞者氏名がその次に列記されていました。その受賞者氏名が終わったところで、回答ともいえるべき次の聖句が書かれていました。「わたし、主は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握り、あなたを見守り、あなたを民の契約とし、国々の光とする。」（イザヤ42・6）

- ・聖書はイスラエルの民は創造神による選民であり、神に愛された民であると教えています。神に愛され、神を愛する関係に置かれた民は、神と全人類の「型」であります。世界の混迷度がますます深まる現在、神はマスタープランを持っておられます。それは人類の救いという計画において、先ずユダヤ人の救い（初穂）から始まります。
- ・ユダヤ人はイエス・キリストを十字架につけた民です。これが約2千年にわたる世界歴史において、キリスト教界からユダヤ人が嫌われ迫害を受けてきた最大の理由であります。しかし神はイエスを十字架につけたユダヤ人たちに、尊いご計画をお持ちでありました。
- ・皆さん。それはどんなご計画か知っておられますか。
⇒ それは、ユダヤ人が被造物の初穂となることです。

1:18 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちに、いわば被造物の初穂にするためなのです。

3) 神の祝福

- ・イエスは公生涯において数多くの「たとえ話し」を語られました。その中のひとつに、種蒔きのたとえがあります。そこには4つの異なる土壌に蒔かれた種が出てきます。そしてもっとも良い土壌に蒔かれた種は、次のようであると言われました。
- ・マタイ福音書13章
13:23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」
- ・良い地に蒔かれた種は、祝福の初穂を結びます。そして30倍、60倍、100倍もの実を結ぶと教えています。その中にはユダヤ人はじめ異邦人も含まれています。豊かな実が結ばれるために、忘れていけないことがあります。それは種がまじつは蒔かれたことです。聖書は、一粒の麦が地に落ちたと言います。

・ヨハネ福音書12章

12:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

- ・地に落ちた一粒の麦（イエス・キリスト）が発芽し、イスラエルの民ユダヤ人たちが初穂となりました。そしてその麦はさらに異邦人も含む多くの実を結ぶようになると聖書は語っています。
- ・ですから、ユダヤ人も異邦人も地に落ちた一粒の麦(イエス・キリスト)につながるならば、その実は多くの祝福となるのです。さらに主の祝福を、今生きているこの地上でも味わうことのできるのです。天父神は、そのような祝福を与えてくださいます。それが、神がお与えてくださる祝福です。私たちは心から、神をたたえようではありませんか。

ま と め

主 題：「だまされないように」（2）

—祝福に与るために—

- ・今日、私たちは「だまされないように」（2）というテーマで、神の声を聞きました。世の中、だまし合いがつづいています。しかし、私たちは聖書を通して、神の祝福に与る道を聞きました。それは神の約束のことばを信じ、受け入れることです。
- ・私たちにとって、何が大切でしょうか。

1:17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

- ・神が祝福くださる麦の実となるに、何が求められるでしょうか。

心が良い地となることです。マタイ福音書

13:23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

- ・私たちは神に愛された聖徒として、実を結ぶ人生を過ごそうではありませんか。

* God bless you!